

令和四年度 揖斐郡読書感想文審査を終えて

揖斐郡読書感想文審査委員会

今年度は二二三三点の応募がありました。これらを自由図書・課題図書部門に分けて学年部ごとに慎重に審査し、特選、入選、佳作を決定いたしました。

優れた感想文に共通していたのは、じっくりと選んだ本を読み、作品の主題を捉え、自身の体験と繋げながら、丁寧に感想を書いていたことでした。また、様々な社会問題に目を向け、今後自分ができるよう行動していくべきか、本に書かれたことから自分の考えをまとめている感想文もありました。

審査をしていく中で気付いた点をいくつかまとめました。参考にしていただけなら幸いです。

(◇…よい点 □…改善点を表しています。)

【低学年の部】

◇低学年らしい感動や発見、気づきが素直な表現で書かれており、どの作品からも本に対して興味をもって読み進めていることや、読後の思いなどが伝わってきた。

◇子どもらしい素直な感想や、自分の身の回りの家族のことが温かく書かれていた。

□全体的にやや字が乱雑な印象を受けた。丁寧に書くようによく掛けた。

【中学年の部】

◇ジェンダー、SDGs、公害、戦争、ウイルスなど、社会に広く目を向けた感想文が多くあった。

◇経験や体験、家族とのつながりについて、本の内容と結び付けて書けていた。

□文字数の規定近くまで書くことができるとよい。

【高学年の部】

◇今問題になっていることや自分の家族、仲間等、様々なところに目を向けて感想文が書かれていた。

◇テーマのはっきりしている作品が多く、伝えたいことがよくわかった。

□原稿用紙の使い方やボキャブラリーについて、気になる点があった。

【中学校の部】

◇感動した点を素直な言葉で書き綴ってある作文が多かった。

◇心に残った言葉を的確に捉え、それに対する自分なりの所感が簡潔にまとめられていた。

□自分の体験ではなく、あらすじを中心に書いてしまっている作品があった。

今年度も多くの応募をいただき、ありがとうございました。今後、すばらしい作品が一層増えることを願っています。